

## 朝鮮語

伊藤 英人

## アンケートに先立って

朝鮮語のヴォイスをめくっては現在まで数多くの論考がある。朝鮮語のヴォイスに関する概説、日韓対照、日本語教育の観点からのヴォイスへの言及がなされた、日本語による論考として、李文子(1977, 1979)、菅野裕臣(1982)、生越直樹(1982, 1990, 1991, 2001, 2011)、生越直樹・木村英樹・鷺尾龍一(2008)、塚本秀樹・鄭相哲チョンファンチョル(1993, 1994)、安平鎬アンピョンホ(1998)、許明子ホミョンジャ(2004)、林田イムジョン(2006)、等がある。

朝鮮語動詞の使役形、受身形は①ヴォイス語形派生接辞、②分離接尾辞、③分析的形式、④語彙的手段によって表される。

①のヴォイス接尾辞は固有語動詞の語幹に接尾され使役動詞、受身動詞を派生させる。使役動詞派生接辞は、-i, -hi-, -li-, -ki-, -wu-, iwu-, -kwu-, -chwu-, -khi-であり、受身動詞派生接辞は-i, -hi-, -li-, -ki-である。使役と受身を派生させる-i, -hi-, -li-, -ki-は同形であり、どの動詞にどの接尾辞が付いて、使役、受身のどちらの意味を表すかは、恣意的であり、さらに使役動詞派生接辞は他動詞派生接辞を、受身動詞派生接辞は自動詞派生接辞でもあるため、当該の派生語が、使役、他動、受身、自動であるかは動詞ごとに一々確認されねばならない。また、固有語動詞にはこれらの派生語幹による派生語を全く持たないものが多い。「派生」という用語を用いたことから知り得るように、これらは日本語の「教える—教わる」のような派生の関係にある別の語であって、辞書には派生された語が「別の」語として立項されている。

mek-ta	食べる	mek-hi-ta	食べられる	mek-i-ta	食べさせる
al-ta	知る	al-li-ta	知られる	al-li-ta	知らせる
po-ta	見る	po-i-ta	見える	po-i-ta	見せる
nol-ta	遊ぶ			nol-li-ta	(機械などを)遊ばせる

能動と受身(自動)と使役(他動)がきれいに3つの語形を取る語は「mek-ta 食べる」の1語のみである。「nol-ta 遊ぶ」には「①何かをして遊ぶ、②何もせずにいる」の2つの意味があるが、他動の意味になるのは、②のみである。また、語源的には「nol-ta 遊ぶ」から派生した nol-li-ta には「からかう」という同音の別語が存在する。朝鮮語の受身(自動)と使役(他動)の派生は、ちょうどスラブ語における「語彙的意味を同じくするアスペクト語形(完了体)形成」と「語彙的意味を異にするアクティオンスアルト形式派生」のような複雑な様相を呈する。

②の分離接尾辞による方法には、まず他動詞及び一部の自動詞に生産的に接尾され、受身・自発を表す語形を作る{-a / -e + -ci-}がある。用言の連用形{-a / -e}に分離可能な接尾辞{-ci-}が附された形式である。能動文を受身文に変える時にこの語形による受身形を用いることは殆どの場合、出来ない。

cwu-ta 与える cwue-ci-ta 与えられる cwue-nun ci-ess-ciman 与えられはしたが

分離接尾辞による方法として「名詞+hata (～する)」を「名詞+sikhita (～させる)」に変えて使役形にするもの、「名詞+toyta (原義：成る)」、「名詞+patta (原義：受ける)」、「名詞+tanghata (原義：被る)」、「名詞+macta (～当る)」に変えて受身形にする方法がある。「名詞+toyta (原義：成る)」は「名詞+hata (～する)」と共に自動詞を形成する場合もある (palcen=hata 発展する / palcen=toyta (自ずと発展する)。「名詞+hata」、「名詞+toyta」がどのような意味の動詞になるかについては生越直樹(2001)に詳細なリストがある。また「名詞+sikhita (～させる)」も常に使役の意味となるとは限らず、単なる他動の意味になる場合もある。

1) sokay=hay cwuseyyo. / sokay=sikhye cwuseyyo.<sup>1</sup>  
 紹介=してください。 / 紹介=lit.させて ください (→紹介してください。)

例文 1)は、共に「紹介してください」の意味であり、sokay=hata, sokay=sikhita は両者とも他動詞「紹介する」の意味になる。「紹介させる」と言うためには後述の分析的形式を用いなければならない。

- 2) a) itung pakmun-un an cwungkun-ekey cwukum=tanghayssta.  
 伊藤 博文-は 安 重根-に 死ぬこと=被った。  
 b) itung pakmun-un an cwungku-ekey cwukim=tanghayssta.  
 伊藤 博文-は 安 重根-に 殺すこと=被った。  
 c) itung pakmun-un an cwungkun-ekey phisal=tanghayssta.  
 伊藤 博文-は 安 重根-に 被殺=被った。  
 d) itung pakmun-un an cwungkun-ekey phisal=toyessta.  
 伊藤 博文-は 安 重根-に 被殺=成った。  
 e) itung pakmun-un an cwungkun-ekey cwukessta.  
 伊藤 博文-は 安 重根-に 死んだ。

<sup>1</sup> 以下、アンケートの例文番号は太字の [1], [2]…で示し、それ以外の例文は 1), 2)…で示す。

例文 2)の a)~e)は全て「伊藤博文は安重根に殺された」という意味の文である。2)の c)と d)の「被殺」は, hata (する) と結合することがなく「殺されること」を意味する漢語名詞である。「名詞+tanghata (原義: 被る)」はマイナスの意味の語と結合するが, 日本語の「~させられる」, 「~する」に対応する場合がある (haysan=tanghata 解散させられる, thoyhak=tanghata 退学させられる, silyen=tanghata 失恋する)。「名詞+patta (原義: 受ける)」, 「名詞+macta (～当る)」の例は以下の如くである。

3) kyay pan-eyse hangsang nollim=patnun kes kathay.  
 あの子 クラス-で いつも からかい=受けている みたい。  
 あの子クラスでいつもからかわれているみたい。

4) sicang-eyse cikap-ul suli=macassta.  
 市場-で 財布-を すり=当った。  
 市場で財布を掏られた。

③の分析的方法は, 副詞形形成語尾{-key}に hata (する), mantulta (作る) を後置して使役の意味を表す方法である。

5) tongsayng-eykey malwu-lul takk-key hayssta.  
 弟-に 床-を 拭く-ように した (→拭かせた)。

④の語彙的手段とは「ttaylita (殴る)」と「macta (殴られる)」のように能動と受身が違う語によるペアをなしているような場合である。日本語の場合, 複合動詞の「殴り殺す」の受身形は「殴り殺される」であるが, 朝鮮語の場合, 複合動詞の構成要素のそれぞれのヴォイスを変えなければならない。

6) kwunin-i ku-lul ttaylie=cwukiessta.  
 兵士-が 彼-を 殴り=殺した。

7) ku-nun kwunin-eykey maca=cwukessta.  
 彼-は 兵士-に 殴られ=死んだ(→殴り殺された)。

そもそも朝鮮語は日本語ほどには受身文を好まない。

6) 太郎が次郎に投げ飛ばされた。

という日本語は朝鮮語の受身文には訳し得ず,

- 7) cilo-ka talo-lul naytencyessta.  
 次郎-が 太郎-を 投げ飛ばした.

のように能動文に訳すしかない。<sup>2</sup>

日本語の受身文との最大の違いは、被害の受身（例：雨ニ降ラレル，友人ニ死ナレル）が存在しないこと、使役の受身（読マセラレル）が基本的に存在しないことなどである。

もちぬし受身文は両言語とも可能であるが、①のヴォイス接尾辞による固有語受身動詞の場合

- 8) cenchel-ul tha-ko ka-taka pal-ul palp-hi-essta.  
 電車-を 乗っ-て 行く-途中で 足-を 踏ま-れた.  
 （電車で足を踏まれた）

のような文は成立するが、

- 9) \*ku-nun ayin-hanthey pat-un phenci-lul chelswu-hanthey ccic-ki-essta.  
 彼-は 恋人-に もらっ-た 手紙-を チョルス-に 破か-れた.

のような文は成立しない。日本語のもちぬし受身がかなり広い所有関係で成立するのに対して、朝鮮語のそれはヴォイス接尾辞による固有語受身動詞の場合、身体の一部ないし身体に密着した身に着けたもの等においてのみ可能であることが明らかにされている。<sup>3</sup>

### アンケートを中心とした言語データ

以下では、アンケートの例文の朝鮮語訳を中心に関連する事象について例文を補いつつ回報することにする。

[1a] 《風などで》ドアが開いた。

mun-i yel-li-essta.  
 戸-が 開いた.

他動詞「開ける」を意味する yel-に、受身・自動詞形成接尾辞-li-が付いて派生された自動詞 yel-li-（開く）が用いられる。他動詞と自動詞は日本語の「開ける—開く」の意味に

<sup>2</sup> 韓国における英語学習で、John was seen to run by Mary.のような文は「ジョンはメリーに走るのを見ることされた」のような朝鮮語としては非文に訳すか、「メリーはジョンが走るのを見た+受動文」のように能動文の朝鮮語に訳して、なおかつこれは受動文である、と教える方法を探る。

<sup>3</sup> 生越直樹(2011)参照。もちぬし受身全般に関しては林田(2006)参照。

相当する‘yel— yelli-’という形を異にする語が用いられる。したがって[1b]は次のような他動詞で示される。

[1b] (彼が) ドアを開けた。

mun-ul yel-essta.

戸-を 開け-た。

[1c] 入口のドアが開けられた。

ipkwu mun-i yel-li-essta.

入口 戸-が 開け-られた。

[1c]は[1a]と同じ語形が使用される。受身・自動詞形成接尾辞によって派生された語は、①受身の意味になる、②自動詞になる、③両者を兼ねる、の3つの場合があり、yelli-は③のケースであるので[1a]と[1c]は同じになる。「ドアが壊れた／ドアが壊された」の場合

10) mun-i puseci-essta.

ドア-が 壊れ-た。

は、日本語の「ドアが壊れた」に相当する。何者かによって壊されたドアを発見した場合

11) mun-ul puswu-e noh-ass-ney!

ドア-を 壊して おいた-ね。

(ドアが壊されてるね。)

という言い方をする。一方、「紙が破れている／破かれている」は

12) cong-i-ka nwuku-nka-ey uyhay ccic-eci-essta.

紙-が 誰-か-に よって 破か-れ-た。

13) cong-i-ka nwuku-nka-ey uyhay ccic-ki-essta.

紙-が 誰-か-に よって 破か-れ-た。

14) cong-i-ka nwuku-nka-ey uyhay ccic-ki-eciessta.

紙-が 誰-か-に よって 破か-れ-ら-れ-た。

のように ccic- (破く) に分離接尾辞{-eci-}が付いた形 (例文 12), 自動詞・受身形成接尾辞{-ki-}が付いた形 (例文 13), 受身形成接尾辞{-ki-}にさらに分離接尾辞{-eci-}が付いた形 (例文 14) の全てが受身文を表すことが出来る。[1c]の述語動詞も自動詞・受身形成接尾辞{-li-}による派生であり, nwuku-nka-ey uyhay (誰かによって) を入れることが出来るが,

例文 12), 14)に相当する形式, すなわち yel-eci-essta, yel-li-eci-essta による受身文は作ることが出来ない. 同様に,

15) ドアが誰かによって閉められた.

mun-i nwuku-nka-ey uyhay tat-hi-essta / \*tat-aci-essta / \*tat-hi-eci-essta.  
 ドア-が 誰-か-に よって 閉め-られた.

の場合, 13)に相当する自動詞・受身形成接尾辞{-hi-}が付いた形のみが受身文を形成し得る. このようにどの形式が受身文の述語となり得るかは, 動詞ごとにまちまちである.<sup>4</sup>

[2] 私は(自分の)弟を立てさせた.

[2-1] na-nun tongsayng-ul (ilukhye) se-ywu-essta.  
 私-は 弟-を (起こし) 立た-せ-た.

[2-2] na-nun tongsayng-ul ilese-key ha-yessta.  
 私-は 弟-を 起き立つ-ように した.

自動詞 se- (立つ) に他動詞・使役動詞派生接辞{-ywu-}が附された se-ywu-他動詞「立たす」が用いられる. [2-2]のような分析的形式による表現も可能である. 自動詞使役文の被使役主は日本語と同じく対格が用いられる.

[3] 私は (自分の) 弟に歌を歌わせた.

[3-1] na-nun tongsayng-eykey nolay-lul pulu-key ha-yessta.  
 私-は 弟-に 歌-を 歌-うように した.

[3-2] na-nun tongsayng-eykey nolay-lul sikhi-essta.  
 私-は 弟-に 歌-を させ-た.

[3-1]は分析的形式による表現, [3-2]は nolay-lul hata (lit.歌をする→歌を歌う) を使役形にしたものである. 日本語同様, 被使役主は与格でマークされるが, [3-2]の場合, 対格の重出も非文ではない. 派生接尾辞による派生形 pulli-は「歌われる」という受身の意味のみを持つ.

[4a] 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた.

[4a-1] emma-nun ai-eykey ppang-ul sa o-key ha-yessta.  
 母-は 子供-に パン-を 買って 来る-ように した.

<sup>4</sup> 生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一(2008)第6章参照.

[4a-2] emma-nun ai-eykey ppang-ul sa o-la-ko ha-yessta.  
母-は 子供-に パン-を 買って 来-い-と 言っ-た.

分析的使役形式を用いた[4a-1]が直訳である。{-key ha-} (lit.~するようにする) 以外に, {-tolok ha-} (lit.~すべくする), {-tolok sikhi-} (lit.~すべくさせる) で言うことも可能である。[4a-2]のように命令文の間接話法の形式で言うのがより自然である。「子供に」の部分は日本語同様与格が現れるが次のような文では対格の重出が可能であるようである。

[4a-3] emma-nun ai-lul ppang-ul sa-le ponay-essta.  
母-は 子供-を パン-を 買い-に 送っ-た.

[4b] 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

[4b-1] emma-ka ai-lul nol-le ka-key ha-yessta.  
母-が 子供-を 遊び-に 行く-ように し-た.

[4b-2] emma-nun ai po-ko nol-le ka-la kula-yssta.  
母-は 子供 見-て 遊び-に 行-け そう言っ-た.

[4b-2]の方が自然な朝鮮語である。次の例も参照。

16) 土曜日だけは子供たちに夜更かしさせてやります。

thoyoil-man-un ai-tul-i pam nuc-key-kkaci an ca-to mwe-la  
土曜日-だけ-は 子供-たち-が 夜 遅-く-まで 否定 寝-ても 何-と  
an hayyo.  
否定 言-います.  
(土曜日だけは子供たちが夜遅くまで寝ないでも何とも言いません。)

[5a] 私は弟に服を着せた。

na-nun tongsayng-eykey os-ul ip-hi-essta.  
私-は 弟-に 服-を 着-せ-た.

直接手を下して服を「着せる」場合にはヴォイス派生接尾辞による他動詞形を用い、自分で「着させる」場合には分析的使役形式を使用する。

[5b] 私は弟にその服を着させた。

na-nun tongsayng-eykey ku os-ul ip-key ha-yessta.  
私-は 弟-に その 服-を 着-る-ように し-た.

[5b]は、言語による命令など間接的な行為であることを排他的に意味する。「髪を洗う」等の例を見てみよう。

17) 私は(自分の)髪を洗った。

na-nun meli-lul kam-assta.  
私-は 髪-を 洗っ-た。

18) 私は弟の髪を洗った。

na-nun tongsayng-uy meli-lul kam-ki-essta.  
私-は 弟-の 髪-を 洗う-使役・他動-た。

19) 私は弟に(自分で)髪を洗わせた

na-nun tongsayng-eykey meli-lul kam-key ha-yessta.  
私-は 弟-に 髪-を 洗う-ように した。

日本語では自分の髪を洗うのも他人の髪を洗うのも同じ「洗う」を用いるが、朝鮮語では他人の髪を洗う場合、使役・他動ヴォイス派生接尾辞の付いた形式を用いなければならない。なお、朝鮮語では体を洗うのと髪を洗うのに別の動詞を用いる。体を洗う表現に関しては[8]で再論する。

[6] 私は弟にその本をあげた。

na-nun tongsayng-eykey ku chayk-ul cwu-essta.  
私-は 弟-に その 本-を 与え-た。

{cwu-} (与える) は、日本語の「やる／くれる」の意味を兼ねる。

[7a] 私は弟に本を読んであげた。

na-nun tongsayng-eykey chayk-ul ilk-e cwu-essta.  
私-は 弟-に 本-を 読ん-で やっ-た。

[7b] 兄は私に本を読んでくれた。

hyeng-un na-eykey chayk-ul ilk-e cwu-essta.  
兄-は 私-に 本-を 読ん-で くれ-た。

いわゆる連用形{-a/-e}に補助用言{cwu-}が付き、日本語の「～てやる」、「～てくれる」



の意味を表す授恵表現の分析的形式をなす。{cwu-}の代わりに謙譲語{tuli-}を用いると「～て(さし)あげる」の意味を表す授恵表現の分析的形式となる。

[7c] 私は母に髪の毛を切ってもらった。

emeni-ka na-uy meli-lul call-a cwu-essta.  
母-が 私-の 髪-を 切っ-て くれた。

朝鮮語には受惠(逆向授恵)表現が存在しないため、[7c]のような表現をせざるを得ない。

[8a] 私は(自分の)体を洗った。

na-nun mom-ul ssis-essta.  
私-は 体-を 洗っ-た。

[8b] 私は手を洗った。

na-nun son-ul ssis-essta.  
私-は 手-を 洗っ-た。

[8c] 彼は(／その人は)手を洗った。

ku-nun son-ul ssis-essta.  
彼-は 手-を 洗っ-た。

[8a]～[8c]はいずれも動詞 ssis- (洗う)を用いる。

20) 私はその子供の体を洗った。

na-nun kyay mom-ul ssis-ki-essta.  
私-は その子 体を 洗う-使役・他動-た。

他人の体や手を洗う時は「髪を洗う」と同様に使役・他動派生ヴォイス接尾辞の付いた形を用いなければならない。もし

21) 私はその子供の体を洗った。

na-nun kyay mom-ul ssis-essta.  
私-は その子 体を 洗う(他動)-た。

とすると、「その子」は遺体安置所に安置された「動かない」屍体である、と感じられる。あるいは、例えばヘチマが擬人化されて1人称の「私」で語っているような場面が想像されてしまう。「髪を洗う」、「体を洗う」などは、自分自身の身体やその一部、およびモノを洗う場合はそれぞれ kam-, ssi-を用い、他人やペットの犬などの場合は使役・他動派生接尾辞の付いた kam-ki-, ssi-ki を用いる。「髪を梳かす」の場合、自分自身の髪ならば、pis-を他人や人形の髪ならば pis-, pis-ki-の両方を用い得る。

[9] 私は（自分のために）その本を買った。

na-nun ku chayk-ul sa-(a)ssta.

私-は その 本-を 買った。

[10] 彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた。

[10-1] ku-tul-un selo ttayli-ko iss-essta.

彼-ら-は お互いに 殴っ-て いた。

[10-2] ku-tul-un chi-ko pat-ko iss-essta.

彼-ら-は 打っ-て 受け-て いた。

朝鮮語には「相互」を表す補助用言の類が存在せず、ふつう[10-1]のように、selo（お互いに）という副詞で表す。「殴りあう」を意味する chi-ko pat- (lit. 打って受ける) という複合動詞があり、辞書にも見出し語として立項されている。

[11] その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

ku salam-tul-un motwu hamkkey upnay-lo ttena-(a)ssta.

その 人-たち-は みな いっしょに 邑内-へと 発っ-た。

[12] その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）。

ku yenghwa-nun salam-ul ul-li-nta.

その 映画-は 人-を 泣か-せる。

{ul-}（泣く）に使役・他動派生接尾辞{-li-}が付いた語形を用い「人を泣かす」という表現をする。

[13a] 私は卵を割った。[[意志的な動作].]

na-nun talkyal-ul kkay-essta.

私-は 卵-を 割っ-た。

[13b] 《うっかり落として》私はコップを割った。[[無意志的な動作].]

na-nun khep-ul kkayttuli-essta.  
私-は コップ-を 割っ-た。

造語論的レベルで、次のような語形上の相関がある。

-y(ə)	-a/e-ttuli-	-a/e-ci-
ppay- 抜く	ppa-ttuli-抜かす	ppaci- 抜ける
kkay-	kkay-ttuli-割る	kkay-ci-割れる

次の例参照。

22) わざと名簿から抜いたわけではありませんが、何かこう、うっかり抜かして、と申しますか、抜け落ちてしまったようなわけでございまして。

ilpule myengtan-eyse ppay-n kes-i ani-la kkamppakha-ko  
わざと 名簿-から 抜いた の-では なく-て うっかりして

ppattuli-nta-ko-na ha-lkkayo, ppaci-e peli-n kes kathsupnita.  
抜ける-と-でも 言お-うか 抜け-て しまっ-た ようです。

[14a] きのう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった。

[[不可能・不随意].]

na-nun ecey khephi-lul nemu manhi masi-ese cam-ul  
私-は 昨日 コーヒー-を あまりに たくさん 飲ん-で 眠り-を  
mos ca-(a)ssta.  
不可能 寝た。

[14b] きのう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった。

[[不可能・随意].]

na-nun ecey il-i nemu manh-ase cam-ul mos ca-(a)ssta.  
私-は 昨日 仕事-が あまりに 多く-て 眠り-を 不可能 寝た。

[15] 私は頭が痛い。

na-nun meli-ka aphuta.  
私-は 頭-が 痛い。

日本語同様、二重主語文を用いる。

[16] あの女性は髪が長い。

[16-1] ku yeca-nun meli-ka kilta.  
 その 女性-は 髪-が 長い。

[16-2] ku yeca-nun ki-n meli-lul ha-ko issta.  
 その 女性-は 長-い 髪-を し-て いる。

日本語同様、[16-2] のように言うことも可能である。進行相（再帰動詞の場合結果状態相）アスペクトを表す{-ko iss-}（～ている）形式を用いなければならない。

[17a] 彼は（別の）彼の肩を叩いた。

ku-nun ku-uy ekkay-lul twutuli-essta.  
 彼-は 彼-の 肩-を 叩い-た。

[17b] 彼は（別の）彼の手をつかんだ。

ku-nun ku-uy son-ul cap-assta.  
 彼-は 彼-の 手-を つかん-だ。

[18a] 私は彼がやって来るのを見た。

na-nun ku-ka o-nun kes-ul po-assta.  
 私-は 彼-が 来-る の-を 見-た。

[18b] 私は彼が今日来ることを知っている。

na-nun ku-ka onul o-nun kes-ul al-ko issta.  
 私-は 彼-が 今日 来-る の-を 知っ-て いる。

[19] 彼は自分（のほう）が勝つと思った。

ku-nun caki-ka ikinta-ko sayngkakha-yessta.  
 彼-は 自分-が 勝つ-と 思っ-た。

[20a] 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。

na-nun mul-ul masi-essta.  
 私-は 水-を 飲ん-だ。

[20b] 私は（コップの）水を全部飲んだ。

na-nun mul-ul cenpu masi-essta.  
私-は 水-を 全部 飲ん-だ。

[21] あの人は肉を食べない。

ku salam-un koki-lul mek-ci anhnunta.  
その 人-は 肉-を 食べ ない。

[22a] 今日は寒い。

onul-un chwupta.  
今日-は 寒い。

[22b] 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。

na-nun chwupta.  
私-は 寒い。

[23] 私は人がとても多いのに驚いた。

na-nun salam-i acwu manh-un kes-ey nolla-(a)ssta.  
私-は 人-が とても 多-い こと-に 驚い-た。

[24] 雨が降ってきた。

pi-ka o-nta.  
雨-が 降-る。

現場での直接体験を述べる場合、直説法非過去陳述形{-nta / nunta}を用いるのが普通である。起動相(inchoative)を表す{-ki sicakha-} (lit. ～すること始める) という形式があるが現場での発話としては、説明的な感じがする。

[25] その本は良く売れる。

ku chayk-un cal phal-li-nta.  
その 本-は 良く 売-れる。

「売る」を表す phal-に、受動・自動詞派生接尾辞{-li-}が付いた形で「モノが売れる、売れっ子である」という意味を表す。

謝辞

朝鮮語の用例検討に際し、東京外国語大学大学院准教授南潤珍氏（ソウル方言）、同大学院博士後期課程孫ミナ氏（蔚山方言）のご協力を忝うした。茲に心より御礼申し上げる次第である。言うまでもなく、用例、記述中の錯誤は全て伊藤の責任に帰するものである。

参考文献

- 安平鎬. 1998. 「韓国語のいわゆる「擬似受動文」をめぐって」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書 平成10年度II』pp.423-442. 筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究組織
- 李文子. 1977. 「現代朝鮮語の受動表現について」『言語研究』71
- 李文子. 1979. 「朝鮮語の受身と日本語の受身(その一)」『朝鮮学報』91
- 林田. 2006. 「韓国語の他動詞受身文の実証的研究」『朝鮮語研究』3
- 生越直樹. 1982. 「日本語漢語動詞における能動と受動—朝鮮語 hata との対照—」『日本語教育』48
- 生越直樹. 1990. 「韓国人日本語学習者のボイスに関する誤用」『横浜国立大学教育実践研究指導センター紀要』第6・8号
- 生越直樹. 1991. 「現代日本語のテンス・アスペクト・ヴォイスについての総合的研究—韓国人日本語学習者のテンス・アスペクト・ヴォイスに関する誤用について」横浜国立大学
- 生越直樹. 2001. 『「하다」と「する」の言語学』筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織
- 生越直樹. 2011. 「韓国朝鮮語と日本語の対照研究—似ているようで違う—」東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門「外国語と日本語の対照言語学的研究」第4回研究会, 2011年7月16日, 東京外国語大学, 発表要旨
- 生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一. 2008. 『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』
- 菅野裕臣. 1982. 「朝鮮語」『講座日本語学10』明治書院
- 塚本秀樹・鄭相哲. 1993. 「韓国人における固有語動詞の受身について」『月刊言語』22号
- 塚本秀樹・鄭相哲. 1994. 「韓国人における漢語動詞の受身について」『朝鮮学報』153
- 許明子. 2004. 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』ひつじ書房